



## 令和5年度研究助成 【音楽振興部門】より

# 響きあうベルギーと日本—ベルギーの音楽をめぐる学際的研究：F.-J.フェティスのオペラ=コミック《双子姉妹》

広島文化学園大学学芸学部

准教授

大迫知佳子

(共同研究者)

国立音楽大学音楽学部

教授

友利 修

### 1. はじめに

ベルギーは、1830年の独立革命を経て国家独立を果たした。その際、ブリュッセルのモネ劇場で上演された歌劇《ポルティチの口のきけない娘 *La Muette de Portici*》が革命の一つの契機となったとされる。この時代からこんにちに至るまで、ベルギーにおいて、音楽は産業・政治・文学・美術等、幅広い分野に影響を与えている。しかし、日本の音楽界では、近年まで、ベルギーの音楽にはほとんど焦点が当てられてこなかった。

したがって、ベルギーの音楽を巡る研究を深化させるため、本採択テーマの母体である第4回「ベルギー学」シンポジウム「響きあうベルギーと日本—ベルギーの音楽をめぐる学際的研究—」が企画された。シンポジウムでは、社会学・経済学・政治学・文学等、音楽以外の分野も含めた学際的なアプローチを通して、より広い視野に立ってベルギーと日本における音楽的交流を捉える。この学際的なアプローチの中で、独立以降19世紀のベルギー音楽界で大きな影響力を持ったベルギー人作曲家

F.-J.フェティス（1784–1871）のオペラ=コミック《双子姉妹 *Les Sœurs jumelles*》に関する研究・上演を行いたい。この時、彼の音楽理論・音楽実践の両面から、彼の作品を事例としてベルギーの音楽に関する研究を深めることで、「ベルギー学」のさらなる発展をめざすことが、本研究の目的である。

### 2. 筆者のこれまでのフェティス研究、および本研究の概要

フェティスは、19世紀のフランスおよびベルギーで活躍した作曲家である。しかし、長きに渡り、フェティス研究においては音楽理論家・音楽批評家としての彼に焦点が当てられ（Wangermée 1951, Campos 2013, Christensen 2019等）、作曲家としてのフェティスについては断片的な言及にとどまってきた。つまり、彼の作品は、学術的な研究対象としては近年までほとんど顧みられてこなかったといつてよい。

音楽理論家としてのフェティスの最も重要な功績のひとつは、こんにちの音楽における核概念のひとつ「調性（トナリテ）」を最初期に定義した（Fétis 1844）ことである。フェティ

## a. 移行主音的システム

3                      7+                      3

## b. 複主音的システム

減七の和音とその異名同音

1)                      2)                      3)                      4)

7                      +2                      #6                      +4

5                      3

1)を用いた転調

7                      3                      7+                      3

2)を用いた転調

+2                      6                      7                      3

4                      4                      +

## c. 全主音的システム

3                      #                      #5                      6                      6                      7+

6                      -----                      -----                      -----                      -----

5                      -----                      -----                      -----                      -----

譜例1 フェティスの「システム」(Fétis 1844を参照して大迫作成、和音を表す数字はフェティスに従う)

スはこの「トナリテ」の定義に基づき、自身の音楽理論を、過去の巨匠たちの音楽実践作品と関連付けながら構築した。例えば、彼は、「トナリテ」を歴史的な文脈から捉え、音楽作品における「トナリテ」の在り方に次のような発展の過程を見た。つまり、「単主音的システム ordre unitonique」(単旋聖歌の時代のはじまり～16世紀末における転調のないシステム)、「移行主音的システム ordre transitonique」(16世紀末～18世紀における、属七の和音によってひとつの調から別の調への転調が確立され得るシステム)、「複主音的システム ordre pluritonique」(18世紀後期における、減七の和音とその異名同音による和音によってひとつの調から複数の調への転調が確立され得るシステム)、「全主音的システム ordre omnitonique」(18世紀末～19世紀中期における、これまでのシステムと変位を組み合わせるとひとつの調からいかなる調へも転調が確立され得るシステム)という過程である(譜例1)。友利、大迫らによる「日本音楽学会第72回全国大会パネル企画」(2021)においては、《双子姉妹》等のフェティスの声楽(舞台)作品、および器楽作品に、上記システムを含む彼の音楽

理論の反映が見られることが示唆された。

本研究では、この示唆を踏まえ、楽譜やその周辺資料が豊富である《双子姉妹》に関する研究を深化させる。《双子姉妹》はE. プラナール(1783-1853)の台本により、オペラ・コミック座(フェドー劇場)で1823年に初演され、その後パリやヘント等において、1825年～1827年にかけて、計29回上演された<sup>1</sup>。舞台はフィレンツェ近くの田舎町であり、双子姉妹(ジュリア・ロゼット)という特徴を利用した2人の女性の策略と、4人の男性(ラファエル、ファビオ、ジョルジーニ、カルロ)たちの人生が交錯する物語である。

本研究では、このオペラ=コミックのテキスト(内容)分析、楽曲分析、そして周辺事項に関する調査によって、当時のフランス語圏における舞台作品の社会的重要性の中で本作品がどのような意義を持ち得たのかを、解明する。そして、その解明点を踏まえて、オペラ=コミックを上演する。

### 3. 今後の展望

シンポジウムでは、まず、基調講演「作曲家、音楽史家としてのF.-J. フェティス—オペラ=コミック《双子姉妹》、装置としての音楽史、そしてベルギー—」(友利修)において、2.

で述べた分析・調査により、《双子姉妹》の内容、成立・上演状況、受容の在り方、フェティスの音楽思想との関連、同時代の舞台作品に関する事柄等を整理し、作曲家としてのフェティスおよび《双子姉妹》の、当時の位置付けを明らかにする。次に、パネルディスカッション「F.-J. フェティスを読み、そして聴く—歴史・地理社会の点からもたらされる普遍への視野—」(ディスカッサント:友利修、安川智子、岩本和子、司会:大迫知佳子)において、上記基調講演をふまえ、《双子姉妹》のテキストに関する文学的視点、フェティスおよび本作品を巡る歴史・地理社会的視点、そして2.で述べたフェティスのシステムとの関係等の音楽理論的視点等から《双子姉妹》(およびその周辺作品)の歴史的意義について考える。最後に、これらの研究に基づき、オペラ=コミック《双子姉妹》の上演を行う。

以上の研究・演奏により、1) 19世紀のフランス語圏のオペラ・コミック史の中で本作品はどのような意義を持ち得たのか、そして、さらには、2) 周辺のヨーロッパ諸国の影響を受け、複雑な言語事情や多層的な文化を有するベルギーにおいて、フェティスやフェティス作品が音楽という芸術文化の発展にどのように寄与したのか、という観点から、ベルギーの音楽の歴史と現在に関する新たな側面を見出したい。

1 記録が残っているものに限る。

## 謝辞

このたびは、丁寧なご審査をいただき、また、至らぬ点多かった本課題を採択していただき、本当にありがとうございました。この場をお借りしまして、審査委員の皆様、財団の皆様へ心よりお礼申し上げます。また、本研究の演奏面での共同研究者声楽家デュオ *jeux interdits* 新福美咲さん、島田樹里さんにも深く感謝申し上げます。

## 主要参考文献

- ・ Campos, Rémy. 2013. *François-Joseph Fétis, musicographe*. Genève: Droz.
- ・ Christensen, Thomas. 2019. *Stories of Tonality in the Age of François-Joseph Fétis*. Chicago: University of Chicago Press.
- ・ Fétis, François-Joseph; Planard, Eugène de. 1823. *Les Sœurs jumelles, opéra-comique en un acte*. Paris: Chez M<sup>me</sup> Huet.
- ・ ————. 1823. *Les Sœurs jumelles, opéra-comique, en un acte*. s. l. (Archives nationales de France, AJ/13/1090)
- ・ ————. s.d. *Les Sœurs jumelles, opéra comique en un acte*. Paris: Boieldieu.
- ・ ————. 1844. *Traité complet de la théorie et de la pratique de l'harmonie*. Paris: Maurice Schlesinger.
- ・ Wangermée, Robert. 1951. *François-Joseph Fétis, musicologue et compositeur*. Bruxelles: Palais des Académies.